

フキ指導案

チーム四小

青 梅 第 四 小 学 校
授 業 改 善
6 年

10月3日(金)3校時

国語「インターネットの投稿を読み比べよう③」

本時の目標

◎「読むこと」において、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかについて考えることができる。C(1)ウ【思・判・表】

本時のこだわり！！

単元のゴールへ向かって、着実にレベルアップしていること実感させる！
・児童の気づきから単元で扱う指導事項へとつないでいく

学習活動	指導上の留意点（○） 評価（☆）
1. 投稿の書き手が読み手を説得するために、工夫していることを見つける。 T：事実や事例、実体験、数値など、最初に読んだときに見つけていましたね。A：さんを例にするとどの部分が説得するための工夫でしょうか。 C：中に「実際に」とあり「事実」を述べています。 T：事実に「説得力」はあるのでしょうか。 C：想像や作り話ではないので信用性が高いです。	（全体で共通理解を図る） ○「説得力」を高めるとよい効果について共通理解を図り、めあてにつないでいく。【焦点化】 説得のくふうを考えよう
【展開①】 2. ワークシートに書き手の工夫と効果をまとめていく。 C：自分の経験談は相手に伝えやすいね。 C：昔と現在の話はどちらも事実だね。 C：14%と聞くと、具体的に分かりやすいね。 C：大谷翔平は誰もが知っているから強みだね。 3. 見つけた工夫を発表する。 T：工夫に対してどのような効果があるかな？ C：事実や実在する人物などは本当のこと。 T：たぶんとかおそろくなどはどうですか？ C：100%じゃないと事実とは言えないと思う。 T：説得力を高めるには「確かなこと」が大切です。	（グループで協力してまとめていく） ○児童に気付かせたい工夫 ・事実 ・事例 ・数値 ・四字熟語 ・自分の経験 ・ことわざ ・書物の引用 ・有名人 （全体で確認） ○児童の気づきで足りない点は、全体で確認し補う。 ○自分の投稿文に生かせる工夫を見つける。
【展開②】 4. 書き手の、議論の参加について考える。 T：参加の仕方では気になる投稿者はいますか？ C：Cさんははじめ話し言葉みたいで、他の参加者とはちがう。 T：常体と敬体について確認しましょう。 C：常体で言い切るから、はっきりとしている。 C：敬体は丁寧な言葉で、相手に問うたり聞かせたりするときに使えそう。 C：反対意見を受け止めてから、自分の意見を伝えている。 T：相手の納得や共感を得るための工夫もあるね。	○常体と敬体での相手への伝わり方を話し合うことで、使い分けることの大切さを理解する。【共有化】 ○話し合いはケンカではなく、考えを広げたり深めたりすることが大切であり、そのために必要なことをとらえる。 ○インターネットは相手の年齢や性別など、どんな人かわからないからこそ適切に対応していくことの大切さに気付かせる。
5. 次時に向けて自分が手本にしたい投稿文を決め、本時を振り返る。 T：自分が投稿文を書くときに大事にしたいことはなんでしょう。 C：説得力を高める工夫と文末表現のどちらも大切にして、自分の考えを伝えていきたい。	☆書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのような理由や事例を用いることで説得力を高めようとしているのかについて考えている。（ノート・発言）